

新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処の変更について

7月15日付で新型コロナウイルス感染症対策本部において「BA,5系統への置き換えわりを見据えた感染拡大への対応」をまとめ、基本的対処方針を変更した。

(令和4年7月15日 内閣官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室より)

●第7波に向けた緊急提言

- (1) 2022年7月以降全国各地で新規感染者数が急速に増加へ転じ拡大している。
- (2) 世界的に感染性が高く免疫逃避しやすいBA.4やBA.5系統が流行の中心
- (3) BA.4やBA.5系統の重症化には明確なエビデンスがないが、BA.1系統と同様な死亡者数も報告されている。
- (4) BA.1系統では第6波の際、死亡者数、緊急搬送困難事案数も最大であった。
- (5) 高齢者は3回目接種から数か月経過しており免疫の減弱が起きており4回目も進んでいない。
- (6) 60歳未満の3回目接種が停滞している40歳以下は6割弱
10代(31%) 20代(46%) 30代(50%) 40代(59%) 50代(76%)

●第7波において今後生じえる事

- (1) 急速感染者数が増え、高齢者や基礎疾患持つ方の入院患者数、重症者数、死亡者が増加する可能性がある。
- (2) 高齢者施設や医療機関へも感染拡大し医療や介護への負担増になる。
- (3) 医療介護事業者への感染により業務継続に支障をきたす可能性がある。

医療や介護のひっ迫を防ぐための5つの対策

- ① ワクチン接種の加速化 ～ 自分を守るために速やかな接種を推奨する。
- ② 検査の更なる活用 ～ 咽頭痛、咳、発熱がある場合は速やかに検査する。
- ③ 効率的な換気の提言 ～ エアロゾル感染 + 飛沫感染(別紙)
換気を阻害しないパーティションの配置について(別紙)
- ④ 国、自治体による効率的な医療機能の確保
- ⑤ 基本的な感染対策の再点検と撤退
～ ・マスクの着用、感染リスクの高い(3密、混雑、大声)を避ける。
・咽頭痛、咳、発熱の症状があるものは外出を避ける。
・会合やイベントには上記症状がある方は参加しないようにする。
・高齢者を守る行動や感染対策を行う。

(令和4年7月14日発令 新型コロナウイルス感染症対策分科会 資料より)

BA.5 系統への置き換わりを見据えた感染拡大への対応

【対応の基本的な考え方】

- ① 2022 年 7 月以降、全国各地で新規感染者数が増加に転じ、急速に感染が拡大している。
- ② オミクロン株の BA.5 系統は感染者数がより増加しやすいことが示唆され、免疫逃避が懸念されている中、7 月 3 連休や夏休みでの接触機会増加と相まって感染者増加が予想される
- ③ BA,5 系統の重症化率についてのエビデンスはないものの WHO のレポートでは既存のオミクロン株と比較した重症度の上昇は見られない。
- ④ 国内の既存オミクロン株による重症化率は 60 歳以上が 60 歳未満と比べ著しく高い。
- ⑤ 高齢者の 4 回目の接種は 7 月から本格化する。
- ⑥ BA,5 に置き換わる今回の流行で次の事が懸念される
 - ・新規感染者の急速な増加により、高齢者や基礎疾患を有する人を中心に入院患者数、重症者数や死亡者数が増加する可能性がある事。
 - ・感染拡大が継続した場合、高齢者施設や医療機関に於いても感染が広がり・救急・通常医療も含めて医療や介護への負担が極めて大きくなる可能性がある事
 - ・医療・介護従事者に感染拡大した場合、医療機関・高齢者施設での業務継続などに支障をきたす可能性がある事
 - ・あたらな行動制限を行う事は、社会経済的な損失と得られる効果のバランスを失する事

(令和 4 年 7 月 15 日発令 新型コロナウイルス感染諸対策本部資料より)

感染拡大防止のための効果的な換気について

1・背景

- ① 飛沫感染および接触感染に加えエアロゾル感染に対応するため換気の徹底を国として呼びかけてきた。
- ② オミクロン株への対応として、特にエアコン使用により換気が不十分になる夏場において換気的重要性が再認識されている。
- ③ 特にクラスターが多発した高齢者施設、学校、保育所などの感染事例では換気が不十分であったことが原因だと考えられた。
- ④ 改めて効果的な換気方法を示す事が「感染症対策」と「社会経済活動」の両立に繋がると考えられる。
- ⑤ 換気だけでなく「三つの密の解除」「人と人の距離の確保」「マスク着用」「手洗いなどの手指衛生」といった基本的な感染防止策も重要である。

2・提言

- ① 屋内では「屋内での換気のポイント」を参考に、無理なく換気を実施していただきたい。

3・効果的な換気のポイント

- ① 必要な換気量の確保は感染対策の基本（必要な換気量の確保）
 - ・機械換気による常時換気を（気化器換気装置の設置やフィルタの掃除の実施）
 - ・機械換気の設置がない場合「窓開け換気」の実施。
その際、2方向の窓を開けると効果大。室内環境（温度 18～28℃・湿度 40～70%）に配慮して換気方法を選択する。
 - ・必要な換気量を確保するため、二酸化炭素濃度を 1000ppm 以下に維持する。
測定には二酸化炭素濃度測定器（CO₂ センサー）の活用が効果的。
 - ・必要な換気を確保できない場合は換気扇、扇風機、サーキュレーターその他、微粒子を除去できる HEPA フィルタ付きの空気清浄機の使用も有効である。
- ② 感染を防ぐための空気の流れかたの作り方
 - ・十分な外気の取入れ・排気と合わせ、空気の流れにより局所的に生じる空気のよどみを解消。
 - ・エアロゾルの発生が多いエリアから排気し、反対から外気を取り入れると浮遊するエアロゾルを効果的に削減できる。
 - ・空気の流れを阻害しないパーテーションの設置
(令和 4 年 7 月 14 日発令 新型コロナウイルス感染症対策分科会資料より)